

(表紙)

「享和三年癸亥十一月
同 四年諸日記付込有之

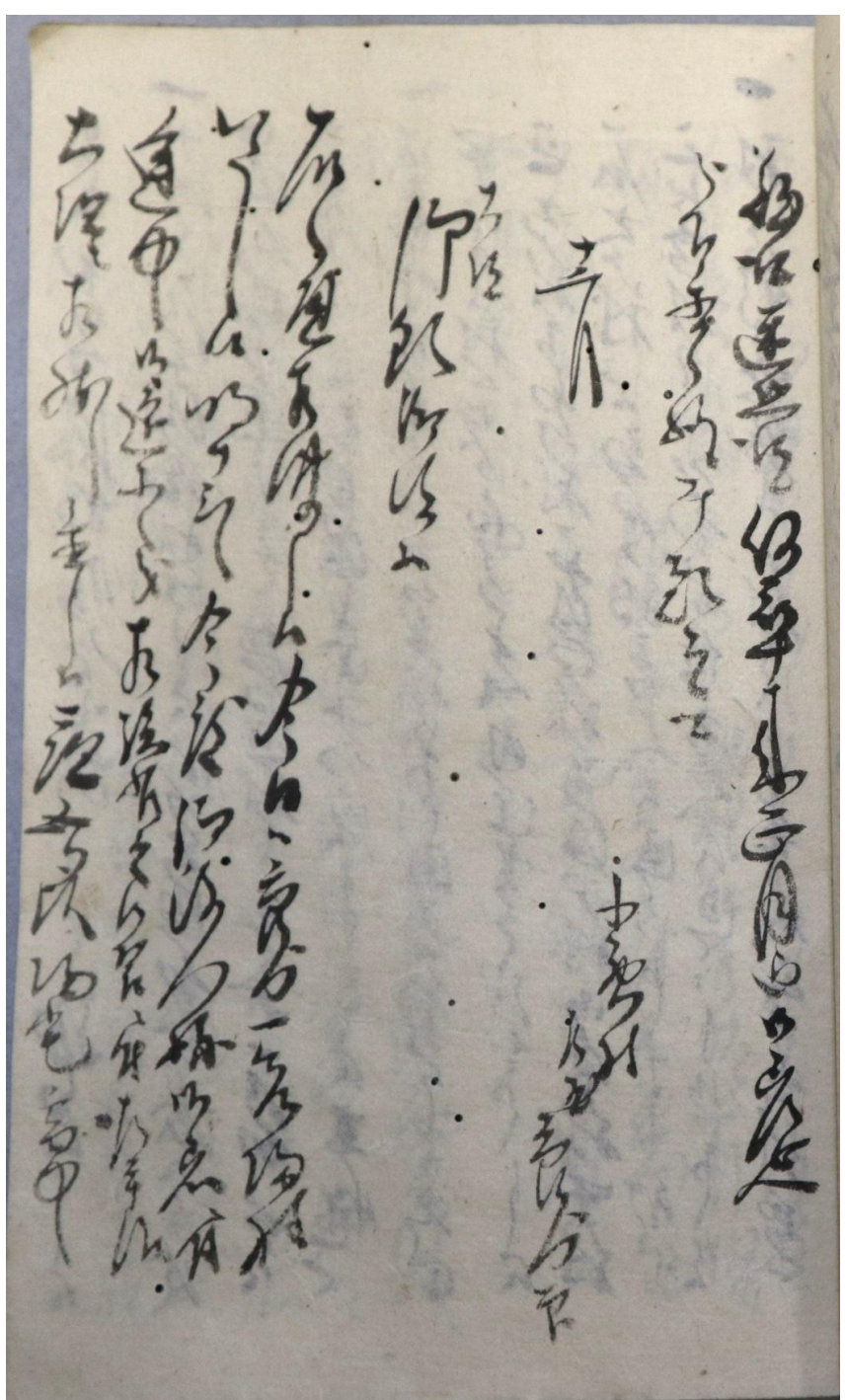
(合字 より)

大垣御預所方安藤対馬守様御替地ニ
御引渡相成候一件日記

子三月より二冊目ニ有

小西郷村庄屋

市左衛門控



難仕迷惑仕候、何卒来正月迄御差延
被下置候様ニ奉願上候、以上

十二月

小西郷村

庄屋

市左衛門

印

大垣

御預御役所

右之通相済申候、今日ハ市左衛門一先帰村
いたし候、明十三日今度御役人様御着ニ付、
途_ニ中御迎等之義相談有之候筈ニ付、
大垣_ニ相残し置申候、夜五ツ頃帰宅、雪中
(百姓代)

[illegible]

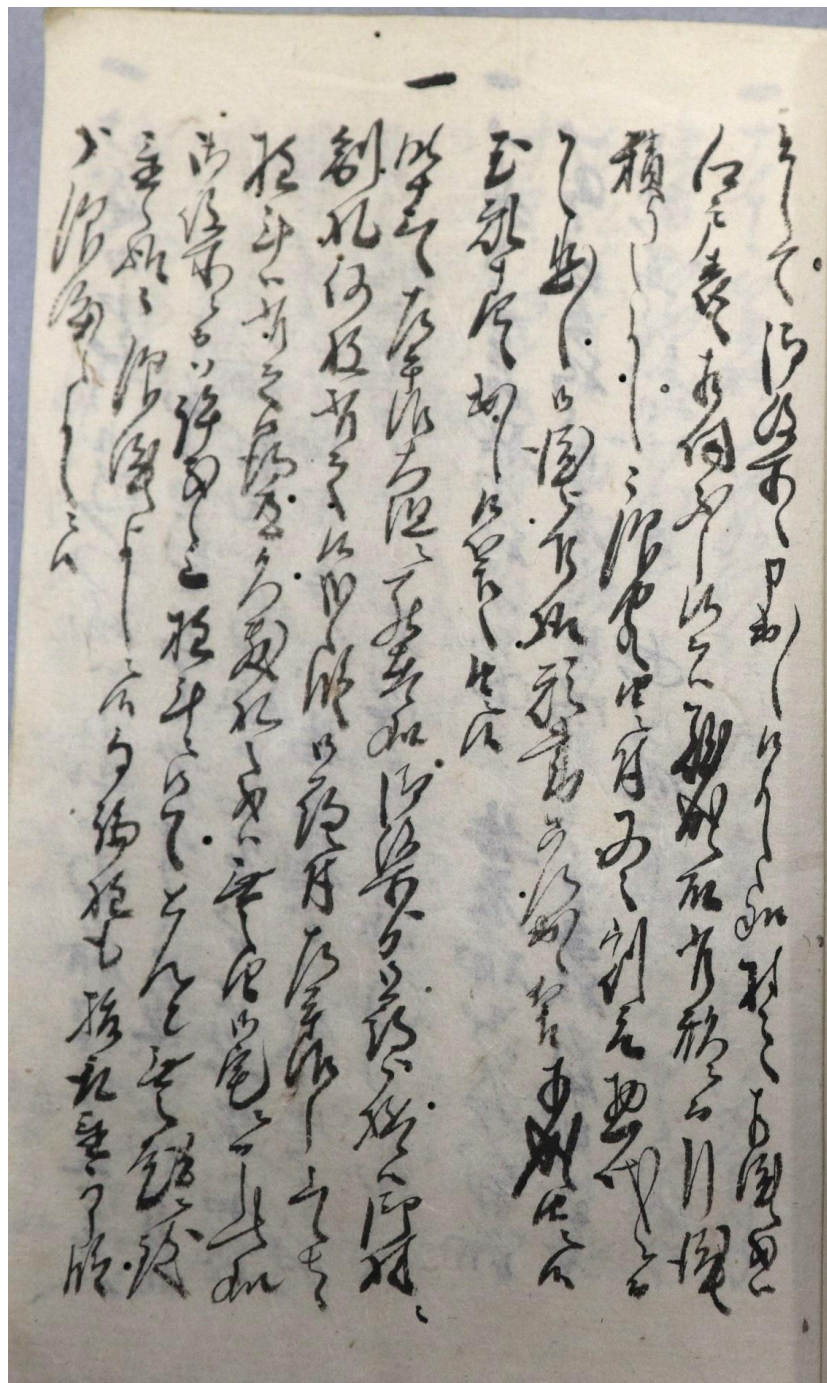
と云、兩三日風邪腹合もあしく難義いたし候

十四日、左平治帰村いたし候、昨日大垣寄合之儀、今度御役人様御迎として、熱田迄村々壺人ツ、罷出候筈

相聞申候、尤日限之義、十八日頃と申事^ニ候、未慥^ニハ
相知不申候よし、笠松御下之内、又ハ外^ニ而も御着之日、
早聞之村方より廻文を以通達有之候筈之よし^ニ候、

且当村、下西郷村、西改田村、東改田村、御望村、中村
右六ヶ村^ニ而雨具持耆人召連候筈之よし、外^ニも

三・四・五ヶ村ツ、最寄^ニ而供^レ老人召連^ニ申候筈之由^ニ候
村々貯夫食之義、村々被^レ下置候様、三十^ト壺ヶ村惣代



として御役所へ申出し候よし之處、村々へ相渡候義ハ、江戸表へ相伺不申候而ハ難成候故、有形ニ而引渡候積り之よし被仰聞候由ニ付、又々割元惣代ニ而かし直し御渡被下様願書差出候筈相成候由ニ候、尤願十四日遣し候筈之由ニ候

(合字 より)

一 昨十三日左平治大垣ニ罷在候處、御役所方御尋被遊候ハ、御村ニ制札何枚有之候哉之段御尋ニ付、左平治申上候は、拾計ハ有之候得共、久敷札之義ハ無之由御宅ニ而申上候處、御役所ニ而御評義之上、拾計ニ候ハ、とんと無之趣ニ致置候様被仰渡候よしニ候、勿論拾も拔取置可申段、被仰渡候よしニ候

一 此度御登り御役人様ハ、小山六右衛門様と申、先御忝人
之よし、外御下役ハ如何も不相聞候、大垣ニ而御代官様
青木丹治様、村田与左衛門様、御勘定ニ而衣斐森之助様、
稲川権三郎様外忝人、安藤様と御頼御座候而当時
御支配御座候よし、大垣ニ而左平治承り来り候
十六日、上曾我屋村より以廻文安藤様御役人中様、
十九日笠松へ御着之由、明十七日笠松角屋ニて出合
御迎参候様申来候、廻文略之

(合字 より)

一 此度御登り御役人様ハ、小山六右衛門様と申、先御忝人
之よし、外御下役ハ如何も不相聞候、大垣ニ而御代官様
青木丹治様、村田与左衛門様、御勘定ニ而衣斐森之助様、
稲川権三郎様外忝人、安藤様と御頼御座候而当時
御支配御座候よし、大垣ニ而左平治承り来り候
十六日、上曾我屋村より以廻文安藤様御役人中様、
十九日笠松へ御着之由、明十七日笠松角屋ニて出合
御迎参候様申来候、廻文略之

言葉の意味

- 付込（つけこみ）帳簿などに仕分けをしないで、次々に記帳していくこと。
- 預所（あずかりどころ）預地。幕府が幕領のうちで遠国奉行や近隣大名に管理を委託した土地。
- 替地（かえち）知行地を取り替えること。
- 免割（めんわり）年貢を百姓個々の持高に応じて割り付けること。その際作成される帳簿を「免割帳」という。
- 急々（きゅうきゅう）物事が非常に急であるさま。
- 繁く（しげく）間をおかずに何度も。
- 用向（ようむき）用のおもむき。用件。用事。
- 迷惑（めいわく）どうしてよいかわからないで途方にくれること。とまどうこと。
- 差延（さしのべ）延期する
- 夜五ツ頃（よるいつつころ）現在の夜八時頃。
- 腹合（はらあい）胃や腸の調子。腹のぐあい。
- あしく（悪しく）わるく。まちがえて。下手に。
- 早耳（はやみみ）うわさ話や事件などを人より早く聞きつけること。
- 夫食（ふじき）「ぶじき」ということもある。江戸時代の農民の食糧のこと。夫食貸（ふじきがし）は、江戸時代、凶作飢饉の際に幕府・諸藩が飯米のない農民に米穀または金銭を貸し付けたこと。
- 有形（ありかた）従来の形。
- 割元惣代（わりもとそうだい）江戸時代、郡代・代官の下にあって一郷の名主・庄屋を支配し、おもに法令の伝達と年貢の諸役の割り当てにあたった半官的職名。大庄屋、割元名主、惣庄屋とも称した。
- 制札（せいさつ）禁止の事項や布告などを書いて、路傍や辻に立てた掲示。
- 評義（ひょうぎ）評議のこと。種々意見を交換して相談すること。
- とんと すっかり。まるで。まったく。
- 登り（のぼり）地方から都へ向かって行くこと。
- 廻文（かいぶん）回覧用の文書。回状。回章。まわしぶみ。めぐらしぶみ。